

時事新報

第三千二百二十四號
 明治廿四年九月三日 本報日
 舊曆辛卯八月朔日 (壬辰)
 日入午後五時五十分
 日出午前四時四十分
 月入午後四時五十分
 月出午前五時三十分
 西曆一千八百九十一年

時事新報定價
 時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物
 價報告あり其代價送送料廣告料は左の如し
 一號三錢〇〇一月五錢五〇三月九錢五〇六月一圓五錢
 〇一年五圓五錢六個月三圓五錢〇一月三錢五〇一月三錢
 〇時事新報社より直接に郵送スルモノハ右定價ノ外一月三錢ノ
 郵費ヲ申付
 時事新報廣告料(前定)
 一行五號活字廿四行 一日限 一頁以上 七以上
 一行 二行 三行 四行 五行 六行 七行 八行 九行 十行 十一行 十二行 十三行 十四行 十五行 十六行 十七行 十八行 十九行 二十行

本社へ寄稿せよ
 東京府下を始め各府縣に通信社あるものありて是より
 各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を
 擴張するより各社同一の記事を掲ぐるより専ら手摺
 り時事新報社社員並に通信員の多きを以て斯類の社
 信社に依りて之を補ふ世間往々此事を知らずして通
 信社に之を報道すれば本社にも其報道は達する事と信
 する方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡か
 らざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に
 本社に向て發送せらるべきを請ふ

時事新報

聯立内閣は如何

維新以來政府の當局者は薩藩出身の人々多く就中薩長
 の兩藩人最も勢力を占めたるが故に或は之を視て薩長
 聯立内閣を稱するものもあれども其實維新の元勳とし
 て薩長に當りたるものは薩長又は其他に論ずる可く何れも
 同一體のものにして其利害も又同一かれば之を
 聯立内閣を稱するは少く妥當あらざるが如し蓋し聯
 立内閣とは英語にて之をコリジョン、カピットと
 云ひ政府内外の權衡を維持する爲め異主義の異分子を
 容れて内閣を組織するものなり薩長と云ひ長と云ひ自ら
 薩長の特長ある可し雖も今の政府を維持するの點に
 於ては雙方共に其利害を同一し又其運命を同一するも
 のあれば現政府の組織の如きは聯合内閣に非ずして矢
 張り薩長内閣を稱する可きものある可し扱ふの功臣内閣
 の功績は如何と云ふに維新以來二十餘年間日本の平和
 安寧を維持して以て今日に至りたるものとされども國勢
 の進歩と時代の變化は如何とす可らず國中多數の人
 々は功臣内閣の政に満足せずして次第に物論の喧しさを
 を致し遂に國會開設の機運を見たる次第なれば元來
 國の政は其平和安寧を謀るに外ならずして他に目的の
 無きものあれば國中多數の人々が之に満足して不平さ
 へなければ國會開設の機運もなきとされども其平和安寧
 非ず別に國會開設の要もなきとされども其平和安寧
 するに於ては國中多數の人の向背如何に係るもの
 のにして多數の人心を向はざる可きは如何なる美
 徳も更なる其效ある可らず即ち薩長功臣の政治が今
 の平和安寧に可からざる所以にして國會開設の止む可
 ざる大原因なり左は功臣内閣の功績は既に過去に屬
 して是より國會開設の時代と稱す可き可きと
 して是より國會開設の時代と稱す可き可きと

思想を代表して之を政の實際に行ふに在り直接に云へ
 ば功臣内閣に代るるに政黨内閣を以てするに在り理勢
 の正に然る可き處もあれども事の實際に於て其新陳代謝
 の機運は頗る微妙にして大に注意すべきものあり軍に
 理勢の上より見る可きは國會の開設は國中多數の年來
 希望したる所にして其國會も目出たく開設したる上か
 らは直に其機運を見んと希望するも一般の情なる可し
 と雖も是れは唯理勢上一通りの見解に過ぎずして實際
 の成行は斯る簡單のものに非ざりし人々平常の行爲は
 理に由らずして情に任ずる可き多きが故に理勢に於て
 は然る可きものも實際に於ては然らざるものなきに非
 ず政治の如きも亦その情態を免れざるものにして國會
 既に開けたり其ふれを開きたる趣旨は時勢の必要に應
 じて國の平和安寧を維持するの目的に外ならずと云ふ
 と雖も人情の波瀾は人の良心を攪亂して動もすれば正
 當の見解を妨げ駁路に誘はせしむる可きあり即ち當局
 者の迷ふ所以にして或は既に國會を開きたるが如し時
 しては紛に其前途を懸念して中心安からざるものもあ
 る可し人情界の常として免れざる所あり左れば一方に
 於ては斯る懸念の最中なる一方に於ては單に理勢に
 乘じて直に多數政治の實を見んと急ぐ可きもあらは其
 間の撞着は免る可らずして或は國內の運轉を急起して
 國會開設の目的を以てする可し我輩の竊に懸念す
 る所あり現に事の實際に徴するに政府は頗るに改革を
 唱へて實地に行ひたる所も少なからざれば其組織を
 見れば依然たる功臣内閣にして更に面目を改めず或は
 近時の更迭に第二流の内閣を見たりと云ふと雖も其第
 二流の人々を以て矢張り功臣の内閣に外ならずして外
 より之を見る可きは功臣内閣の實を失はざるものと云
 はざるを得然るに民間政黨の目的とする所は政黨内
 閣の實行に在りて之を忘れず或は來期の國會には政府
 に對して信任投票を爲す可きと其手段も頗る急激な
 るが如し雙方の感情かくの如くにして次第に押行
 くときは其間に圓滑の折合を見るは到底望む可らずし
 て或は國會の議場に解散の不幸を見、政黨の運動は益
 々陰險に陥る可きと遂には雙方ともに力を以て相争ふ
 如き可きと云ふ可らず國安の爲めに驚ひ可き事
 共あり然らば則ち如何せば可ならんやと云ふに今の政
 府の人々が動もすれば國會の始末に相及するは今日の
 事情に於て一應尤も薩長の職もなきに非ざれば功臣内閣
 の遂に政黨内閣に變遷可きは自然の勢にして早晩免れ
 ざる所なれば今より豫め覺悟して其變化の圓滑に注
 意し又政黨の人々も目下の事情を問はずして漫に無理
 の注文を爲し却て事を誤るの拙策を遂げ雙方共に互に
 一步を譲りて専ら堪忍を心掛くるに於ては其間に圓滑
 の折合を見る可きと雖も薩長に非ず圓滑の折合とは即ち朝野
 聯立内閣の組織にして今の政黨中には皆て政府の局に
 當りて經歷に乏しからざるものあるは勿論、後進者中
 にも亦政黨の鋭才なきに非ざれば政府の當局者は内閣
 更迭の機に際して從來の如く其後任者と部内の第二流第

官報
 農商務省訓令第二十六號
 北海道廳 府縣
 大井區署
 當省所管農入ニシテ本年大藏省訓令第八號ニ據り收入
 官吏ヨリ期定額収入未済翌年度繰越額計算表差出シ
 マルトキハ本年一月當省訓令第二號繰越額計算書ニ未
 収入額ノ内不納額及翌年度繰越ノ金額事由備考欄
 内ニ記載ヲ要スニ添付シ翌年度九月二十日迄ニ當省
 へ差出ス
 明治二十四年九月二日 農商務大臣陸奥宗光

移民の方針 外務省に移民の一課を新設したる理由
 は本紙にも度々記載したる感なるが尙は當局者に付き
 移民の方針を聞くに近來人口の年々増加して人々海外
 出稼を思ふの折柄薩長の移民は本年迄僅か七箇年を出
 てざるに異常の好結果を奏して今は殆んど二萬の多き
 に達し是等移民が年々所持の金を在郷家族のものに寄
 送する高は僅少の額にあらざるが爲め從來農村を以
 て目せられたるものが俄かに繁昌の村落を成す可き山
 口、廣福等に實例乏しからざるを見ては愈々出稼心を
 動かしたる上に布哇の實例に徴して日本人は勞働に堪
 るるの人體多し諸外國より之に依りて内外の
 刺戟にて出稼の熱度は日に増進するもの如く諸府縣
 下より知事の手を経て外務省に移民の請願を爲す者少
 ならず斯く迄に出稼の人氣は引立ちたれども政府が
 一々之れに干渉して布哇移民に與へたる如き保護は今
 の政府の方に堪ふる所に非ず左れば之を全く放任して
 往く處に一任する譯にも行き難き事情ありて今日迄は
 遂に布哇の外出稼を許可せざりしも其結果は甚だ妙さ
 らずして諸善良なる勞働者を産業乏しき内國に止
 め恒心なき無賴漢を外に出すに過ぎず近來評判高き薩
 長婦女の外國に渡航するも又之れが爲にして國の爲め
 に計りて甚だ得策と云ふべからざれば今後外國出稼
 に對する方針を一變し移民の志あるものは願に任して
 出稼を自由にし只外務省は多少の助言を與へて監督す
 る迄に止むれば善良なる勞働者の自由に出稼するを得
 て相當なる職業を得るに至り其結果は薩長に於ては薩長婦女
 女子も亦其業に在付の便を得て自然に其數を減するに
 至るべし況んや移民の事業は海外に於て等の上の所得
 を得る上に實見は常に移民に伴つて我貨物を輸出する
 の機を開くものなれば倍てその同省に於ては移民課ある
 ものを新設したる所以にして重に出稼の定期移民と

雑報

歌舞伎座の差替 同座の狂言は二
 屋にて源藏が八百藏、千代が新藏の二
 記せる如く市村座が時を繰り下げ
 しど爲り直くと二人曳の車で駆け寄る
 費すべく四時に開場して初幕の舞臺は
 れで一時を費したる道具立は極々
 分間も掛らざるべしとすれば遅くても
 幕明きの運びに至るべく市村座の方
 前の兩座死んぞ舞臺に出動すれば其
 より女鳴神と菅原の舞を差替るの外
 の巻には八百藏の佐久間の役割あり
 の役を勤めれば狐火の場に関係あり
 間は早く足を抜かれ稱するよし又忠臣蔵
 幕が由倉敷人早稲といふ名で顔を出し
 子の仲間に入るといへば一層賑わひ
 せるからん又女鳴神の場は竹本と見
 處常盤津ばかりに改ざりたるよし
市村座 比前號の紙上に配せし如く
 場にて當日は大切一幕を演じ二日目
 門一振の出動とて幕間の短く俳優一
 評判好く日を退つて見物人の殖る樹
 内には間みばれのおさまで大入り
 目は宇都宮天井にて舞臺には赤坂
 井伊掃部頭、仲藏の庄屋左衛門、菊
 左衛門の川村勘助、石川八左衛門等
 りを取りし由あるが其後本舞臺本木
 興行せしむるあり大層場にては今
 園十郎は休み中菊五郎左衛門は旅
 時と並べものにもあらざるは無論に